

コラム

瀬田しょうこと

探してみよう、郡山から始めたいこと。

こんにちは、瀬田しょうことです。毎回ご愛読いただき、またご感想もお寄せ頂きまして、ありがとうございます。第四回は、リクエストにお応えして郡山のことを書きます。毎回コラムの最後に「おまけ」をつけますが、今回は全部おまけです。江戸時代の郡山までタイムスリップします。



第四回 郡山のタイムマシンの入口

ドラえもののタイムマシンへの入口は、のび太の机の一番上の引出しです。郡山のタイムマシンの入口は、街中の色々なところに隠れています。

その入口の在処は、なんと、郡山市図書館に所蔵されている[岩代国安積郡郡山町方曲直図絵](#)¹に描かれているのです！今回は、この地図を片手に江戸時代の郡山までタイムスリップします。

地図1：岩代国安積郡郡山町方曲直図



江戸時代は、徳川家康が幕府を樹立した1603年から、元号が明治に変わる1868年まで250年以上あります。郡山市図書館の目録によると、この地図は「宝暦11年（1761年）頃でないかと思われる」とのことです。

この地図の範囲は、現在でいうと、北は逢瀬川、南は県道17号線沿いにある三菱電機の北端、東は郡山駅、西は麓山公園まであたりです。これが、宝暦11年当時の郡山村の大きな範囲です。

郡山村とは

宝暦11年当時、現在の郡山市の大部分は二本松藩の中にありました²。二本松藩の東には三春藩、西には会津藩がありました。二本松藩の中は、広域的に「郡」という行政区に別れており、その中に「組」、更にその中に「村」という行政区が置かれていました。年貢は、この「村」の単位で課せられていたようです。地図1が示す郡山村とは、二本松藩の中の安積郡の中の郡山組（海道組）の中の郡山村です。

郡山村は奥州道中の宿場の機能も果たしていました。このため、村を更に上町と下町に分けて、それぞれの町に村役人をおいていました。地図1の左側が上町、右側が下町です。宝暦7年には、上町と下町を合わせて約1600人が住んでいたそうです³。

1 鮮明な地図1は、郡山市図書館のデジタルアーカイブで、ぜひ見てみて下さい。

<https://adeac.jp/koriyama-lib/catalog/mp0101000010-200040>

2 郡山市湖南町の沿革 https://www.city.koriyama.lg.jp/uploaded/life/61331_100241_misc.pdf

3 郡山市郡山宿解説パンフレット <https://www.city.koriyama.lg.jp/uploaded/attachment/26905.pdf>

安積郡の中には、郡山組の他に、片平組と大槻組がありました。郡山組の中には、郡山村を中心に、南は笹川、西は八山田、北は日和田や高倉、東は横塚などの村々が入っていました。これらは、今もある地名なので、何となく、安積郡や郡山組の範囲がわかりますか？視覚的には、郡山市図書館所蔵の岩瀬四郡絵図⁴（地図2）と、二本松市出版の二本松藩行政区分⁵を付き合わせみると、よくわかります。

地図2：岩瀬四郡絵図



タイムスリップ初級：今もあるもの

地図1に戻って、江戸時代の郡山にタイムスリップしてみましょう。郡山市図書館のデジタルアーカイブで、[岩代国安積郡郡山町方曲直図絵](#)を開いてみてください。

地図の中央部で左右（南北）に伸びる道（ピンク色の線）は、うすい百貨店の前の道です。江戸時代には、この奥州道中を参勤交代の行列が通っていたのだと思います。この道の少し下に目を向けると、「旧代官屋敷」と書かれた場所があります。それぞれに「大槻組」「片平」「海道組」（郡山組⁶）と書かれています。これらは二本松藩が安積郡に置いていた三つの組の名前です。この三つの組には、それぞれ代官がいて、その三つの代官所が郡山村に置かれていました。

この代官所のうち「片平」と「海道組」の間を通っている道を見てください。「代官小路」と書いてあります。これは、現在もある代官小路です。郡山駅から陣屋を通過してなかまち夢通りに続く、あの細い道です。代官小路には、案内板が設置してあるので探してみてください⁷。

次に、地図上で、奥州道中（中央のピンク色の線）の少し上を見ると、真ん中あたりに堂閣マークで示された「善導寺」があります。二つの敷地のうち下方（東側）の敷地は、現在のみずほ銀行の裏あたり、上方（西側）は、概ね現在の県道17号線沿いにある善導寺と思われます。地図上で善導寺から少し右（北）を見ると「稻荷八幡」と「愛宕堂」、そして左上（南西）を見ると「如法寺」があります。こからは、安積国造神社と、ゆうちょ銀行の横にある愛宕神社と、はやま通り沿いにある如法寺です。

地図の右端（北）を見ると、水色で示された「太子川」の少し左に、堂閣マークで示された「大重院・御霊宮」があります。これは大町二丁目にある阿那訶根神社（うぶすな様）です。太子川は、逢瀬川の昔の名前だと思います。

更に、地図の左下（南東）を見ると、堂閣マークで示された「阿弥陀堂」があります。これは、現在の文化通り沿いにある熊野神社です。

4 鮮明な地図2は、郡山市図書館のデジタルアーカイブで、ぜひ見てみて下さい。 <https://adeac.jp/koriyama-lib/catalog/mp0101000020-200040>

5 二本松藩の行政区分と藩領図。広報にほんまつ2018年6月号 https://www.city.nihonmatsu.lg.jp/data/doc/1527481661_doc_18_0.pdf

6 海道組とは郡山組のこのようです。色々と資料を見てみましたが、どうしてなのかは、まだわかりません。自由研究の課題です。

7 代官小路の案内板 <https://maps.app.goo.gl/jLmaJ8hbrr7fkaoR6>

神社仏閣は、今もあるので、見つけやすいタイムマシンの入口です。しかし、郡山の神社仏閣は、江戸時代よりも遥かに昔からあるので、タイムマシンに乗ると、かなり昔まで行ってしまいます（笑）⁸。

タイムスリップ中級：水をたどると見つかるもの

地図の上端（西）を見ると、水色で示された「辨天池」と、その少し上に神社マークで示された「麓山社」があります。これは現在の麓山公園の場所です。弁天池とは、現在のはやま通りから見える麓山公園の池です。麓山神社は、麓山公園の文化通り側にあります。地図上で「麓山社」は木に囲まれて描かれています。現在の麓山神社も沢山の松の木に囲まれています。これらの松の木は、この地図の頃からある木なのか気になります⁹。

地図上で「辨天池」の隣には「細沼」があります。現在、細沼は地名としては存在しますが、実際の沼は、もうありません。江戸時代の「細沼」は、現在の合同庁舎の場所にありました。現在の目印は、合同庁舎の横にある小さな水天宮です¹⁰。

地図上で「細沼」から少し右下を見ると「皿沼」があります。皿沼は、郡山初の水道である「皿沼水道」の貯水池です。これは、現在の郡山商工会議所の場所です。商工会議所の入口には、皿沼の水神様が祀ってあります¹¹。

江戸時代、郡山村は、奥州道中の宿場として発展してきました。享保時代（1720年代）になると、人口が約1400人にまで増えて、井戸水だけでは飲料水が不足してきます。このため、この皿沼から竹樋を使って家々に水を引いたのが皿沼水道です。しかし、郡山村の人口は更に増えていきます。この地図の宝暦11年（1761年）には人口1600人を越えます。皿沼の水は、田んぼの水としても使っていたため、田植えの時期には特に飲料水が不足しました。このため、明和7年（1770年）に、清水台や細沼などに井戸を掘って水を流す「山水道」をつくりました¹²。現在、この山水道の原水待箱は、なかまち夢通りで見ることができます¹³。

地図に戻り、地図の上方と下方を見ると、水色の渦巻きで示した「清水」が二箇所あります。下方にある「清水」は、現在の郡山駅です。アティの裏側にある小さな水神宮には、この清水の神様が祀ってあります¹⁴。上方にある「清水」は、現在、神明町にある子安神明宮の場所です¹⁵。

清水があったり、井戸を掘ると水が出るということは、地下に帯水層があるということです。郡山の地面の下には大槻層と西ノ内層に砂礫層があり、これらの「清水」や「山水道」の水源も、この帯水層を通して来た水のようなようです¹⁶。解体前の郡山市歴史資料館の入口には、可動式の大きな郡山の地層模型が置かれていました。私が最後に見た時は、動かなくなってしまっていたので、新しい歴史情報博物館に移行されるのかどうかわかりませんが、もし移行されたら、新しい博物館で郡山の地面の下の様子も見てみてください。

タイムスリップ上級：一年に一回だけ開くタイムマシンの入口

郡山村には、二本松藩が安積郡に置いていた三つの組（大槻、片平、郡山）の年貢米を保管する米蔵も置かれていました。

地図上で、「如法寺」の下（東側）で「善導寺墓場」の左（南側）の長方形の敷地を見てください。ここには、「大槻組蔵」「片平組蔵」「海道組蔵」と書いてあります。この米蔵のある敷地は、現在の

8 郡山まちなか文化遺産：まちなかの神社仏閣 <http://www.koriyama-bunkaisan.jp/story/story08.html>

9 麓山公園弁天池 <https://maps.app.goo.gl/iDWiQ3nVzmvGkx2o6>

麓山神社 <https://maps.app.goo.gl/VyXjLuarBjTFV9NQA>

10 細沼の水天宮 <https://maps.app.goo.gl/kp1Nu4YQeKTsj4aX6>

11 郡山商工会議所の水神様 <https://maps.app.goo.gl/SAZiMTaca2sfCGi49>

12 郡山市水道100年のあゆみ <https://www.city.koriyama.lg.jp/uploaded/attachment/2763.pdf>

<https://www.city.koriyama.lg.jp/site/jougesuidou/5675.html>

13 なかまち夢通りの山水道 <https://maps.app.goo.gl/8n6knAYuQK6xsFLp9>

14 郡山駅のところ清水の水神宮 <https://maps.app.goo.gl/AkHddqj8KMSzSxqXA>

15 神明町の子安神明宮 <https://maps.app.goo.gl/rz8fBdJZD8Zcl6J66>

16 経済企画庁土地分類基本調査郡山盆地 https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/gmpp/pdf/guide/reports/report/02_14.pdf 福島県の湧水シリーズ http://sinkyu-tisui.co.jp/e_and_w_old/no22/fr02.html

金透小学校です。また、この米蔵近くの町名は「蔵場」となっています。この「蔵場」町があった場所は、現在の消防署の前、県道17号線が走っている場所です。

また地図上で、先に見た「代官小路」の一本左側（北側）の道を見てください。ここは「北町」となっています。この場所は、代官所の北側なので、北町と呼ばれていました。この辺りは、現在の住所でいうと駅前です。

郡山には、「蔵場」や「北町」のように、江戸時代の地図にあった町名が、一年に一回だけ戻って来る日があります。地図上にある「稻荷八幡」（安積国造神社）の秋祭りの日です。この秋祭りは、この地図に描かれた宝暦11年（1761年）の約20年前に始まり、現在も続いています¹⁷。秋祭りの時は、「蔵場」や「北町」といった江戸時代の町名で旗場が立ち、山車や神輿が出ます。

この江戸時代の町名に会えるタイムマシンの入口が開くのは、一年のうち9月27日から29日の三日間だけです。タイムスリップとしては上級編ですが、是非、江戸の町名を探しに行ってみてください。

タイムスリップ名人：「宝暦11年頃でないかと思われる」から広がる世界

ここまで見てきた岩代国安積郡郡山町方曲直図には、私にとって、まだよくわからない謎が隠されています。わからない謎を解くのは面白いので、自由研究の課題です。

郡山市図書館の目録でも、岩瀬四郡絵図（地図2）には「宝暦11年」と断定的な記載がされているのですが、この岩代国安積郡郡山町方曲直図（地図1）には「宝暦11年頃でないかと思われる」と、定かではない記載のされ方になっているのです。

特に、私にとって興味深い謎は、地図の左右にある黒い鍵型で描かれている「枡形」の位置です。

枡形とは、敵や部外者が簡単にお城や宿場町の内に入って来られないようにするための出入口の仕組みです。お城に行くと、お堀の門を入った後に、その右手か左手に再び門があって、お城に直進で入れないようになっています。その右か左に曲がらないといけない場所が、四角なので枡型と呼ばれます。

この枡形は江戸時代の郡山宿にもありました。そして、その位置は郡山宿の拡大に伴って外側に数回動かされました。謎なのは、宝暦7年（1761年）を描いたと思われる岩代国安積郡郡山町方曲直図に示されている上町側の枡形の位置が、他の資料¹⁸が示すところによる文政8年（1825年）以降の位置だということです。

他の資料を見てみると、一番最初の上町側の枡形は、江戸初期（1615年頃まで）に、「上町」と「新上町」の堺の交差点（現在の中町一丁目の交差点¹⁹）につくられます。これが、郡山宿の拡大に伴い、天和時代（1681年から1883年）には、「阿弥陀町」の交差点（現在の文化通りの交差点²⁰）まで動かされます。その後、郡山宿は更に拡大したため、文政8年（1825年）に、更に南の「新丁」の先（現在の本町一丁目と二丁目の堺あたり²¹）まで動かされた、とあります。

つまり、他の資料によると、宝暦11年（1761年）当時の枡形の位置は、岩代国安積郡郡山町方曲直図が示しているの場所よりも、もっと内側で「上町」と「新上町」の堺の交差点のはずなのです。

この興味深いズレの他にも岩代国安積郡郡山町方曲直図には、こんな小さな謎が隠れています。

- 郡山町に昇格したのは文政7年（1824年）で、宝暦11年にはまだ郡山村だったはずだけど、なぜこの地図の題名には郡山町なのかしら？
- 地図の左端に「東京道」と書いてあるけど、江戸時代に「東京」という名前はあったのかしら？

17 安積国造神社秋祭り <http://www.asakakunituko.jp/html/page06.html>

18 郡山市郡山宿解説パンフレット <https://www.city.koriyama.lg.jp/uploaded/attachment/26905.pdf>
安積の歴史シリーズI

<http://fkeizai.in.arena.ne.jp/wordpress/wp-content/uploads/2021/08/2109asakanorekisi%E2%85%A0.pdf>

19 上町側の一番最初の枡形：中町一丁目の交差点 <https://maps.app.goo.gl/318V8SzTeMt6Hiyy8>

20 上町側の二番目の枡形：文化通りの交差点 <https://maps.app.goo.gl/ryHUv99SZKE9GAUq6>

21 上町側の三番目の枡形：本町一丁目と二丁目の堺あたり <https://maps.app.goo.gl/Kvk1hC8aA8BuUt689>

- 三つの代官所とも「旧代官屋敷」と書かれているけど、代官所は幕末まであったはず。なぜ「旧」と書いてあるのかしら？

こうして見ていると、[岩代国安積郡郡山町方曲直図](#)は、本当に宝暦11年（1761年）を描いているのだろうか？、後の世に復元・修復された際に宝暦11年でないものが混ざり込んでしまったのだろうか？、それとも他の資料に何か誤解があるのだろうか？と、興味深い謎の世界が広がっています。

謎はともあれ、枡形があったことは事実です。この事実は、現在の道の形にしっかり残っています。中町一丁目の交差点と文化通りの交差点を南北に通った時、「なんで道が真っ直ぐ噛み合っていないんだろう？」と思ったことは、ありませんか？この道のズレは、なんと江戸時代の枡形の跡なのです。これらの交差点は、名人級のタイムマシンの入口です。ぜひ足を運んで、謎解きにも取り組んでみて下さい。

また、下町側にも枡形の道跡が残っています。脚注18の資料に詳しい説明が載っているので、下町側のタイムマシンも探してみてください。さらに、文政8年に造られた枡形は、郡山村が郡山町に昇格したことも記念していたので、とても立派な石組みだったそうです。この石組みに使われた石は、現在の荒池の護岸石としてや麓山公園の飛瀑の石組みとして使われているそうです。ただの石ではないのです。

おまけのおまけ

最後まで読んで頂きありがとうございます。もしかしたら「あーれー？国際交流のこと、全く書かなくて大丈夫なの??」って思ってますでしょうか？今回の内容は、郡山のことに見えますが、実は国際交流に繋がる内容なのです。

外国に行くと、自己紹介をした後に、「郡山ってどういうところなの？」と聞かれます。私は「ご飯が美味しくて、街の中にちょこちょこ400年以上も前のものが隠れてて散歩するのが面白い。ちょっと行くとすぐに自然もあるところ」と紹介します。そうすると、返事は大抵「えー、400年!!」という感じです。江戸時代まで400年、パッとタイムスリップできることは、かなり自慢できます。

国際交流とは両方通行なので、自分だったら、郡山をどう紹介するかなぁと考えてみてください。

瀬田しょうこ：郡山生まれ郡山育ちで、安女（黎明）卒の経済学博士。日本、英国、ニュージーランドの政府・中央銀行で、市場や銀行の政策を作り運営する仕事をしてきています。10年以上、海外で生活していて見えてきた「あー、こんなこと郡山からできたら、かっこいいなあ」をまとめています。

前回までのコラム：<https://www.city.koriyama.lg.jp/soshiki/45/109536.html>

前回までのコラムのまとめは、KIP 11月号の3ページ目をご覧ください。
<https://www.city.koriyama.lg.jp/soshiki/45/77674.html>